

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

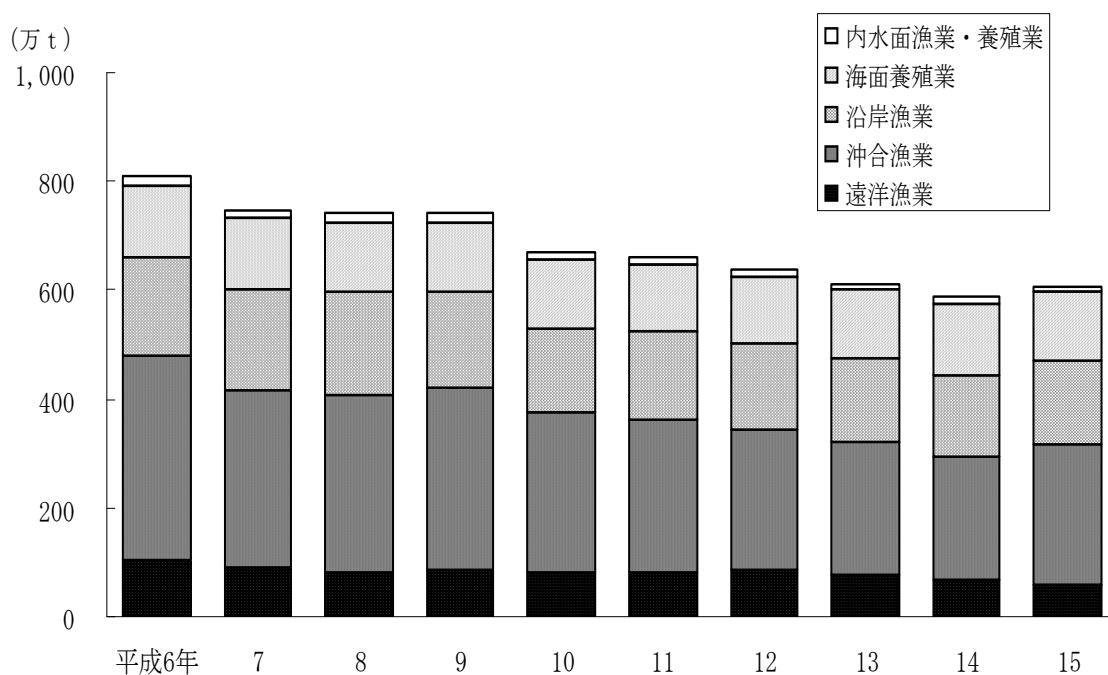
平成 15 年の我が国の漁業・養殖業の生産量は 608 万 3,147 t で、前年に比べ 20 万 3,234 t (3.5%) 増加した。

このうち、海面漁業の漁獲量は、472 万 1,974 t で、前年に比べ 28 万 8,195 t (6.5%) 増加した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は 60 万 1,969 t で、前年に比べ 8 万 4,376 t (12.3%) 減少し、沖合漁業は 254 万 3,401 t で、前年に比べ 28 万 5,451 t (12.6%) 増加し、沿岸漁業は 157 万 6,604 t で、前年に比べ 8 万 7,120 t (5.8%) 増加した。

また、海面養殖業の収穫量は 125 万 1,333 t で、前年に比べ 8 万 1,914 t (6.1%) 減少した。内水面漁業・養殖業の生産量は 10 万 9840 t で、前年に比べ 3,047 t (2.7%) 減少した。

図 1 漁業・養殖業生産量の推移



(1) 海面漁業

海面漁業の漁獲量は、472 万 1,974 t で、前年に比べ 28 万 8,195 t (6.5%) 増加した。

ア 部門別漁獲量

(ア) 遠洋漁業

漁獲量は 60 万 1,969 t で、前年に比べ 8 万 4,376 t (12.3%) 減少した。

これは、遠洋いか釣が 3 万 7,519 t (38.3%)、大中型遠洋かつお・まぐろ 1 そうまき網が 2 万 177 t (11.3%)、遠洋まぐろはえ縄が 1 万 8,429 t (11.9%) 減少したため

ある。

また、海面漁業に占める遠洋漁業の割合は12.7%で、前年に比べ2.8ポイント減少した。

(イ) 沖合漁業

漁獲量は254万3,401 tで、前年に比べ28万5,451 t (12.6%)増加した。

これは、大中型1そうまき網その他が8万1,409 t (15.4%)、さんま棒受網が6万9,125 t (40.3%)、中・小型1そうまき巾着網が6万4,016 t (27.7%)、小型底びき網縦びきその他が3万7,478 t (13.4%)増加したためである。

また、海面漁業に占める沖合漁業の割合は53.9%で、前年に比べ3.0ポイント増加した。

(ウ) 沿岸漁業

漁獲量は、157万6,604 tで、前年に比べ8万7,120 t (5.8%)増加した。

これは、採藻が1万6,222 t (12.9%)、さんま棒受網が1万2,719 t (46.2%)減少したものの、さけ定置網が5万8,850 t (37.5%)、大型定置網が3万5,425 t (17.6%)、その他の中・小型まき網が1万732 t (232.8%)増加したためである。

また、海面漁業に占める沿岸漁業の割合は33.4%で、前年に比べ0.2ポイント減少した。

図2 海面漁業部門別漁業種類別漁獲量

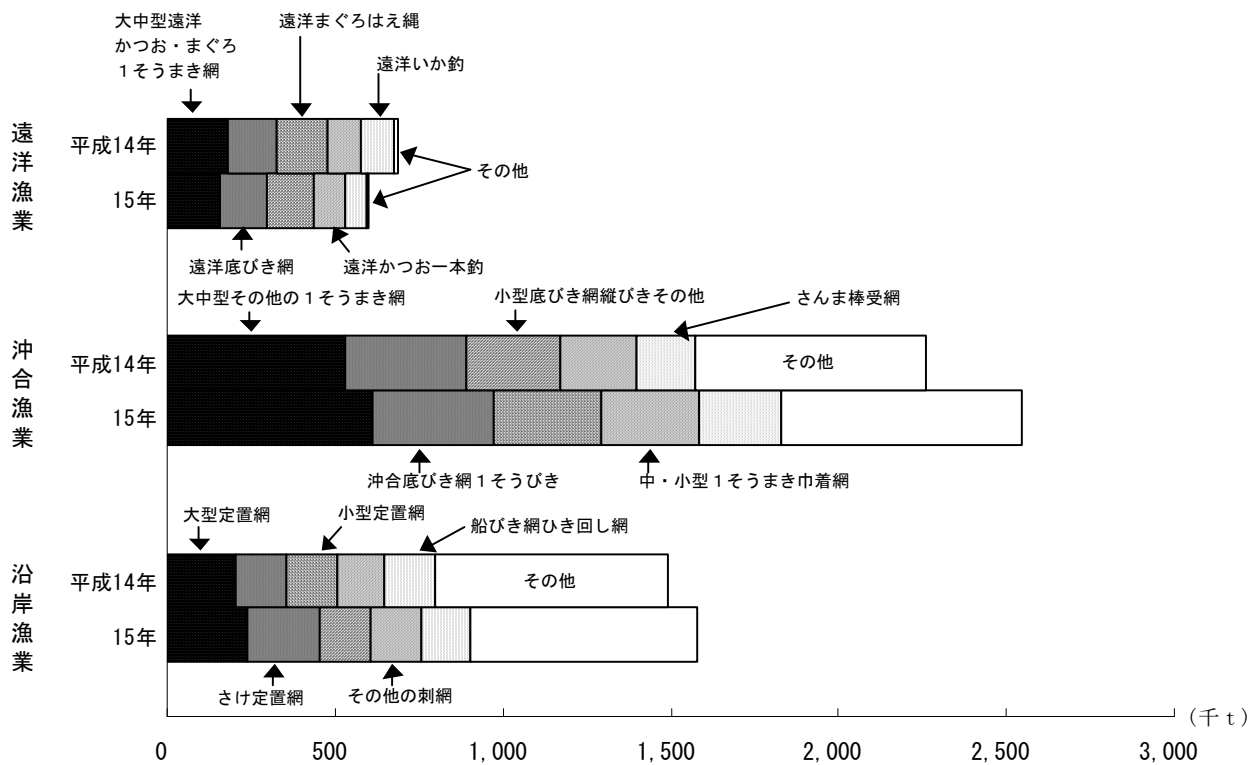


図3 海面漁業部門別漁獲量の推移

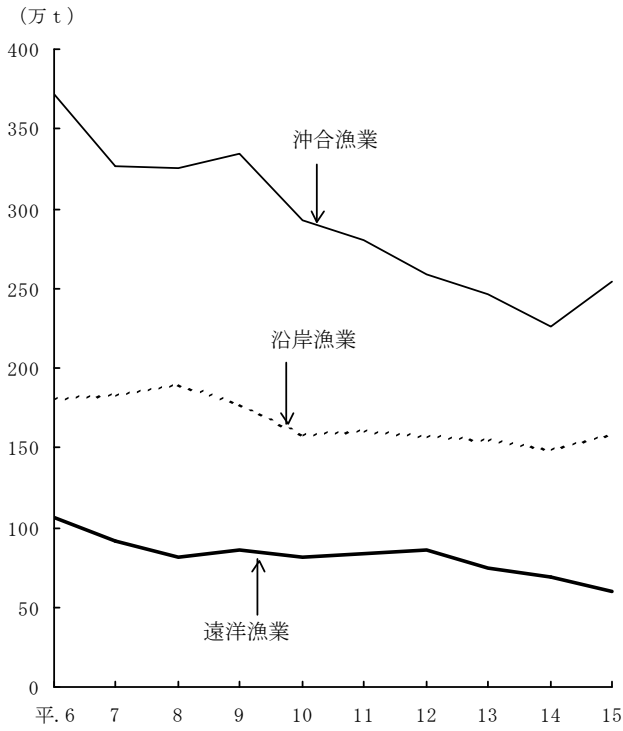


図4 遠洋漁業における漁業種類別漁獲量の推移

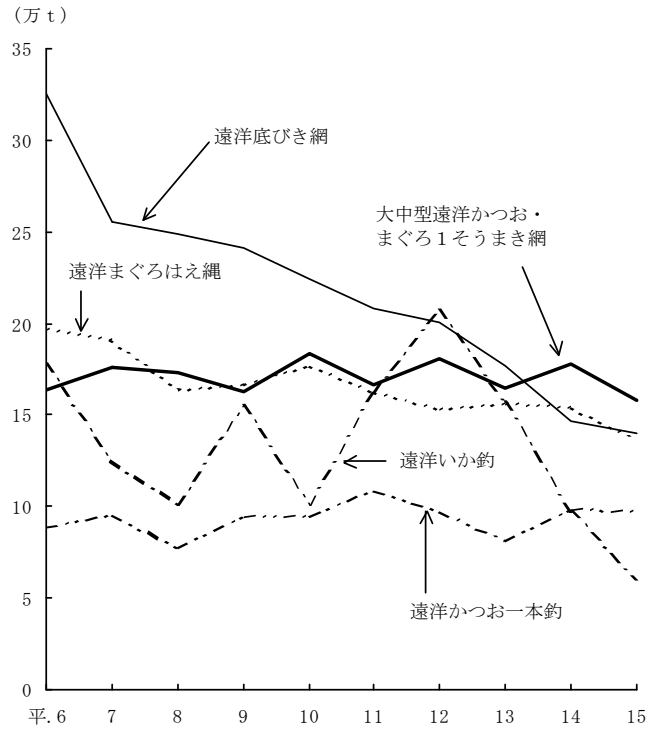


図5 沖合漁業における漁業種類別漁獲量の推移

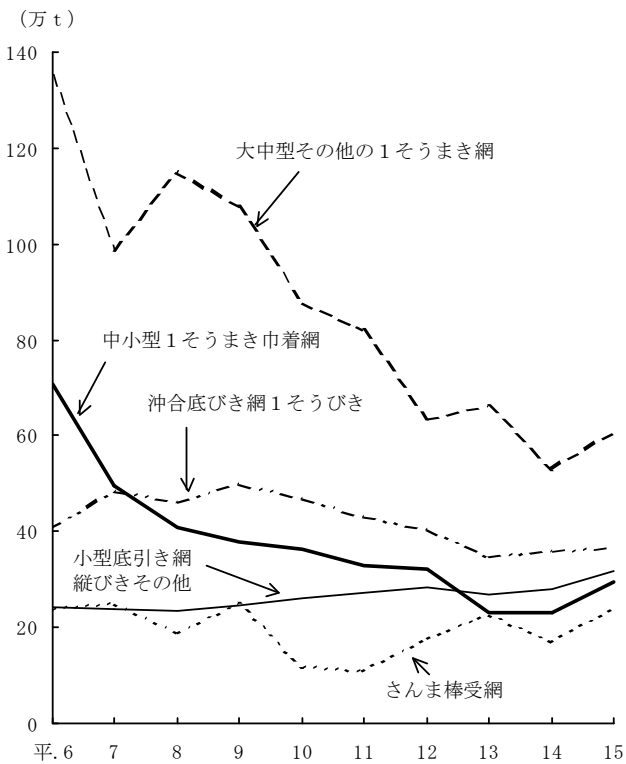
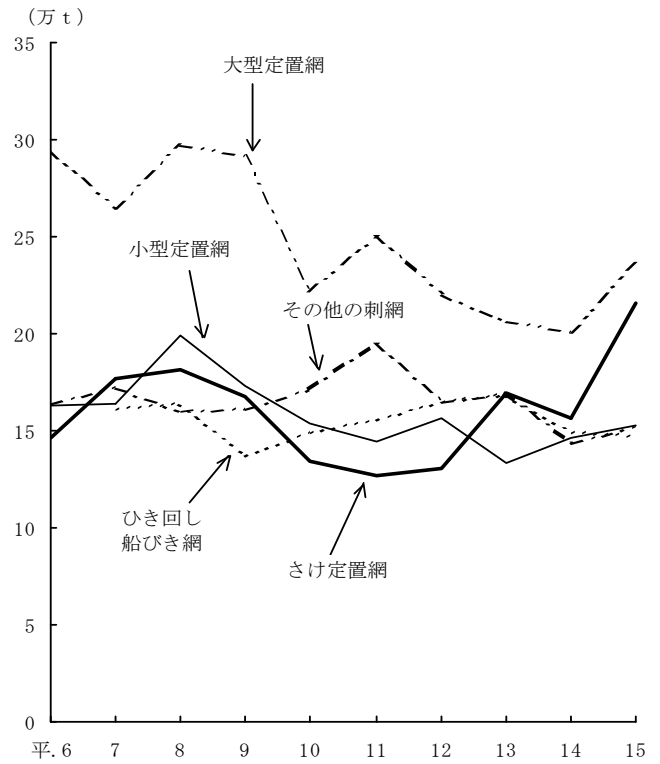


図6 沿岸漁業における漁業種類別漁獲量の推移

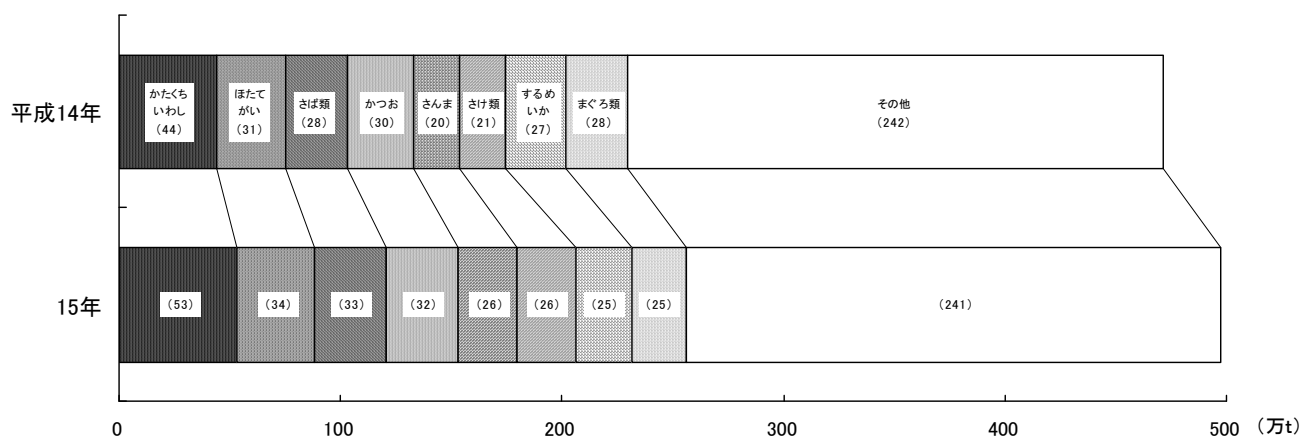


イ 主要魚種別漁獲量

主要魚種の漁獲量の動向をみると、前年に比べて漁獲量が増加した主な魚種は、かたくちいわし、ほたてがい、さば類、かつお、さんま、さけ類であり、減少した主な魚種はするめいか、まぐろ類であった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、かたくちいわしが11.3%、ほたてがいが7.3%、さば類が7.0%、かつおが6.8%、さんまが5.6%、さけ類が5.6%、するめいかは5.4%、まぐろ類が5.3%となった。

図7 海面漁業主要魚種別漁獲量



(ア) かたくちいわし

漁獲量は53万4,919 tで、前年に比べ9万1,761 t (20.7%)増加した。

これは、大中型その他の1そうまき網、中・小型1そうまき巾着網等による漁獲量が増加したためである。

(イ) ほたてがい

漁獲量は34万4,150 tで、前年に比べ3万7,484 t (12.2%)増加した。

これは、小型底びき網縦びきその他等による漁獲量が増加したためである。

(ウ) さば類

漁獲量は32万9,273 tで、前年に比べ4万9,640 t (17.8%)増加した。

これは、中・小型1そうまき巾着網、大型定置網等による漁獲量が増加したためである。

(エ) かつお

漁獲量は32万2,456 tで、前年に比べ2万541 t (6.8%)増加した。

これは、近海かつお・まぐろまき網、遠洋かつお一本釣、近海かつお一本釣等による漁獲量が増加したためである。

(オ) さんま

漁獲量は26万4,804 tで、前年に比べ5万9,522 t (29.0%)増加した。

これは、さんま棒受網等による漁獲量が増加したためである。

(カ) さけ類

漁獲量は26万4,119 tで、前年に比べ5万6,083 t (27.0%)増加した。
これは、さけ定置網等による漁獲量が増加したためである。

(キ) するめいか

漁獲量は25万3,840 tで、前年に比べ1万9,739 t (7.2%)減少した。
これは、沖合底びき網1そうびき、沖合底びき網2そうびき等による漁獲量が減少したためである。

(ク) まぐろ類

漁獲量は25万1,039 tで、前年に比べ2万7,300 t (9.8%)減少した。
これは、遠洋まぐろはえ縄、遠洋かつお一本釣等による漁獲量が減少したためである。

図8 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移(上位1位~4位)

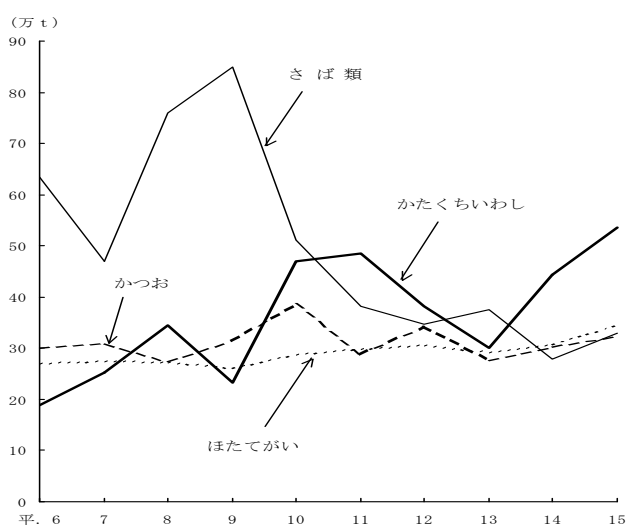
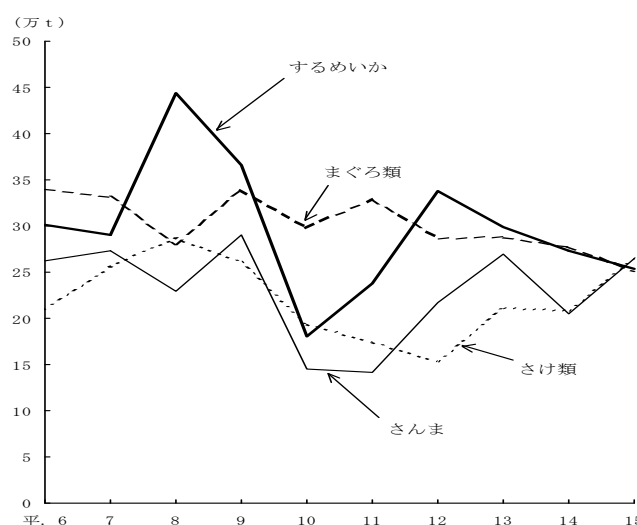


図9 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移(上位5位~8位)



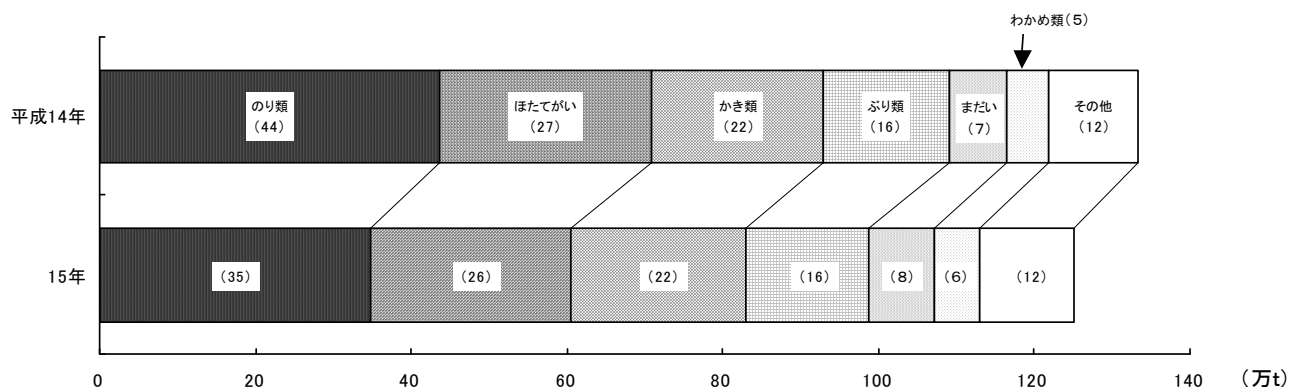
(2) 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は125万1,333 tで、前年に比べ8万1,914 t (6.1%)減少した。

主要魚種の収穫量の動向をみると、前年に比べて収穫量が増加した主な魚種は、まだい、わかめ類であり、減少した主な魚種は、のり類、ほたてがい、ぶり類であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類27.8%、ほたてがい20.6%、かき類(殻付き)18.0%、ぶり類12.6%、まだい6.6%、わかめ類4.8%となった。

図 10 海面養殖業魚種別収穫量



ア 魚類

収穫量は 27 万 3,917 t で、前年に比べ 5,511 t (2.1%) 増加した。

これは、まだい、ぎんざけが増加したためである。

(ア) ぶり類

収穫量は 15 万 7,568 t で、前年に比べ 4,928 t (3.0%) 減少した。

これは、大分県、長崎県等で増加したものの、宮崎県、香川県、愛媛県等で減少したためである。

(イ) まだい

収穫量は 8 万 3,002 t で、前年に比べ 1 万 1,248 t (15.7%) 増加した。

これは、愛媛県、熊本県等で増加したためである。

(ウ) ぎんざけ

収穫量は 9,208 t で、前年に比べ 1,185 t (14.8%) 増加した。

これは、宮城県等で増加したためである。

イ 貝類

収穫量は 48 万 5,221 t で、前年に比べ 1 万 505 t (2.1%) 減少した。

これは、ほたてがいが増加したためである。

(ア) ほたてがい

収穫量は 25 万 8,339 t で、前年に比べ 1 万 3,653 t (5.0%) 減少した。

これは、北海道で増加したものの、気象の影響により青森県等で減少したためである。

(イ) かき類 (殻付き)

収穫量は 22 万 4,861 t で、前年に比べ 3,485 t (1.6%) 増加した。

これは、岩手県等で減少したものの、広島県、岡山県等で増加したためである。

図 11 海面養殖業魚種別収穫量の推移（魚類）

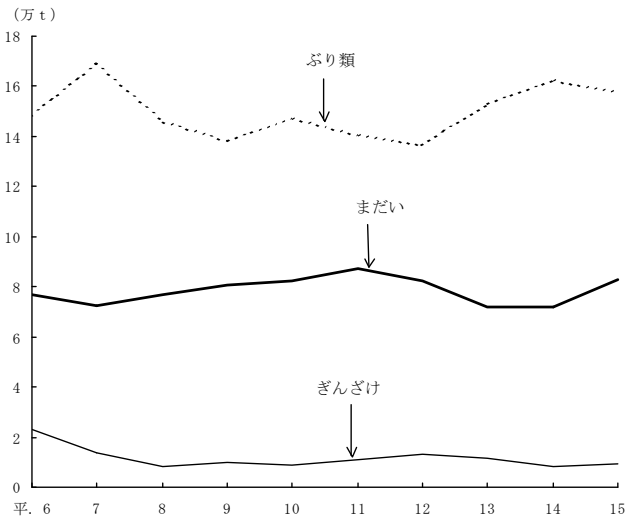
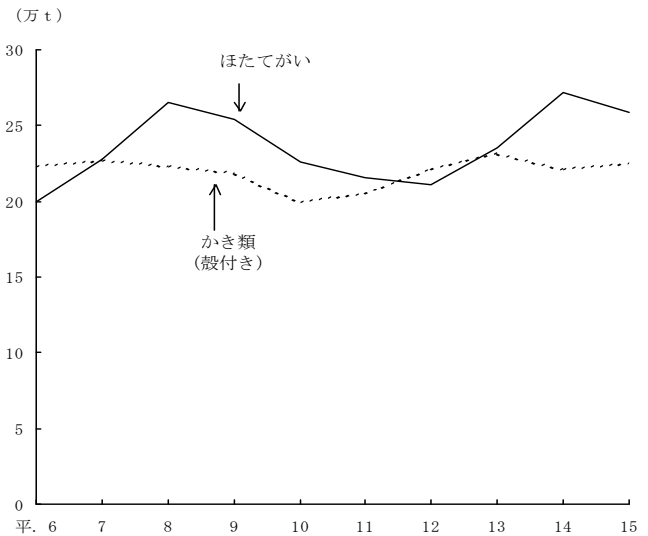


図 12 海面養殖業魚種別収穫量の推移（貝類）



ウ 海藻類

収穫量は 47 万 7,705 t で、前年に比べ 8 万 247 t（14.4％）減少した。

これは、のり類が減少したためである。

(ア) のり類（生重量）

収穫量は 34 万 7,354 t で、前年に比べ 8 万 8,677 t（20.3％）減少した。

これは、経営体数の減少や病気の発生により、佐賀県、福岡県、香川県等で減少したためである。

(イ) わかめ類

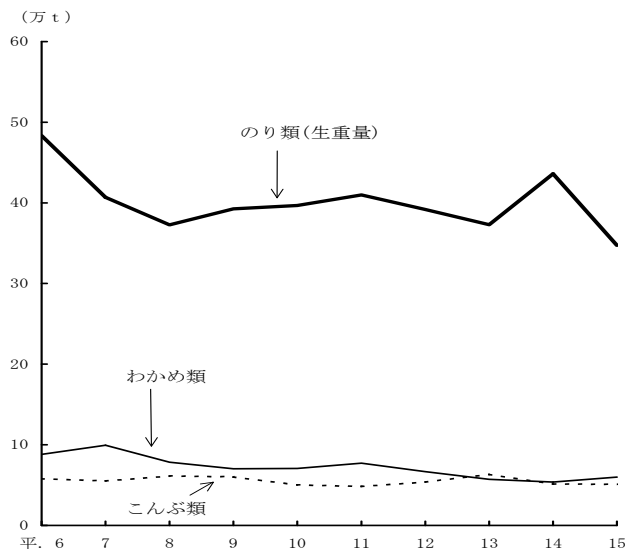
収穫量は 5 万 9,870 t で、前年に比べ 6,057 t（11.3％）増加した。

これは、宮城県、岩手県等で増加したためである。

(ウ) こんぶ類

収穫量は 5 万 978 t で、前年並みであった。

図 13 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



(3) 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要 148 河川及び 28 湖沼）の漁獲量は 5 万 9,951 t で、前年に比べ 1,438 t（2.3%）減少した。

なお、平成 15 年においては、全国の漁業権等が設定されているすべての河川及び湖沼を調査対象としており、その漁獲量は 6 万 3,328 t であった。

ア 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は 3 万 5,989 t で、前年並みであった。

また、湖沼における漁獲量は 2 万 3,963 t で、前年に比べ 1,536 t（6.0%）減少した。

イ 主要魚種別漁獲量

(ア) しじみ

漁獲量は 1 万 6,940 t で、前年に比べ 839 t（4.7%）減少した。

これは、気象の影響等により、青森県等で減少したためである。

(イ) さけ類

漁獲量は 1 万 3,858 t で、前年に比べ 3,400 t（32.5%）増加した。

これは、そ上量の増加等により、北海道等で増加したためである。

(ウ) あゆ

漁獲量は 8,420 t で、前年に比べ 2,243 t（21.0%）減少した。

これは、台風や大雨による増水等により、徳島県、和歌山県等で減少したためである。

(エ) こい

漁獲量は 2,883 t で、前年に比べ 476 t（14.2%）減少した。

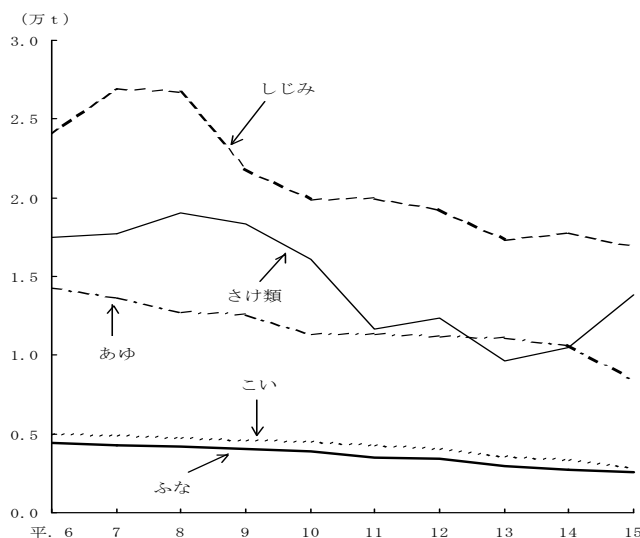
これは、コイヘルペス等の影響により、茨城県等で減少したためである。

(オ) ふな

漁獲量は 2,534 t で、前年に比べ 172 t（6.4%）減少した。

これは、茨城県、青森県等で減少したためである。

図 14 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



(4) 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は4万9889 tで、前年に比べ1,608 t (3.1%) 減少した。

ア うなぎ

収穫量は2万1,526 tで、前年に比べ414 t (2.0%) 増加した。

これは、鹿児島県で減少したものの、愛知県、宮崎県等で増加したためである。

イ にじます

収穫量は9,229 tで、前年に比べ632 t (6.4%) 減少した。

これは、山梨県等で増加したものの、静岡県等で減少したためである。

ウ こい

収穫量は8,060 tで、前年に比べ1,220 t (13.1%) 減少した。

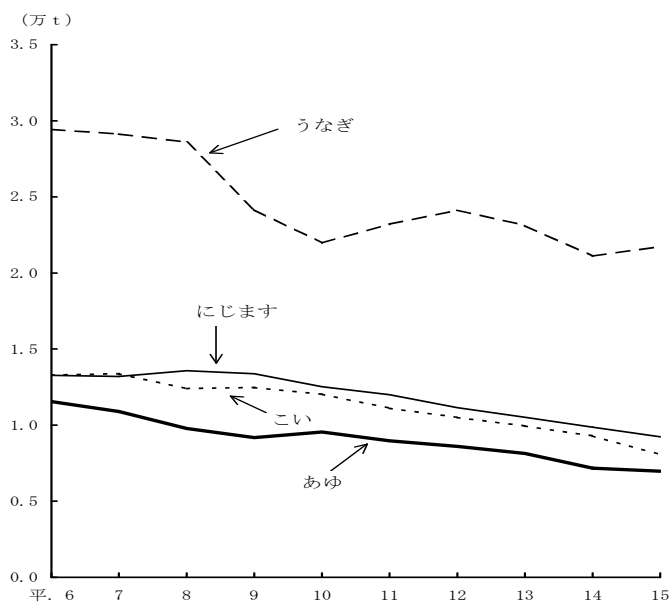
これは、コイヘルペス等の影響により、茨城県等で減少したためである。

エ あゆ

収穫量は6,962 tで、前年に比べ204 t (2.8%) 減少した。

これは、徳島県等で減少したためである。

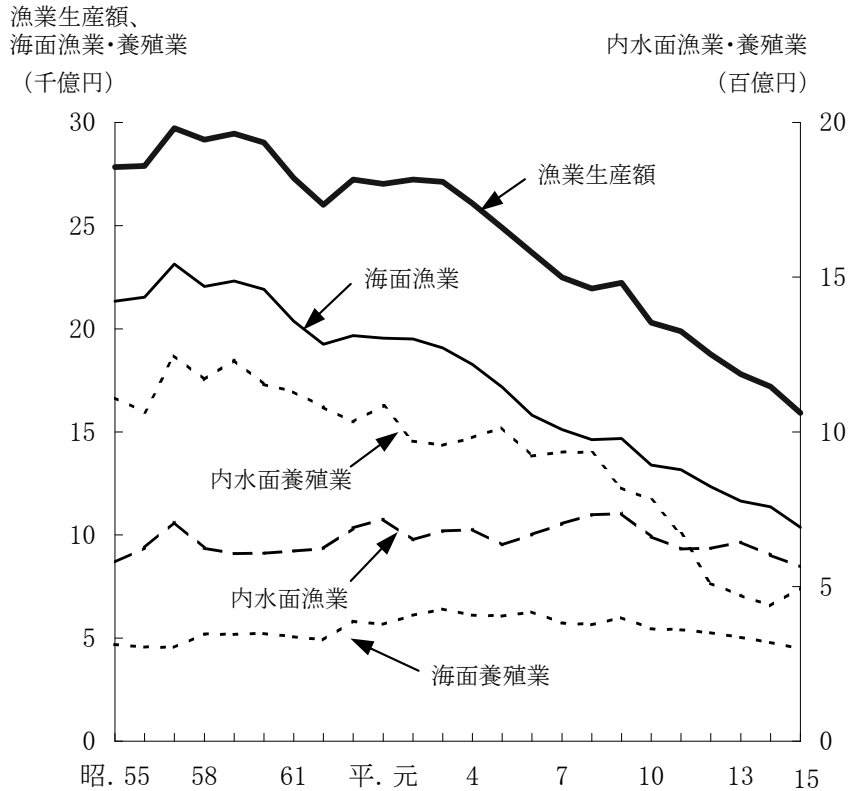
図 15 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移



2 漁業・養殖業生産額

平成15年の漁業生産額は1兆5,905億円で、前年に比べ1,322億円（7.7%）減少した。また、漁業生産額の推移をみると、近年、漁獲量の減少などから減少している。

図16 漁業生産額の推移



(1) 海面漁業

海面漁業の生産額は1兆372億円で、前年に比べ992億円（8.7%）減少した。

ア 部門別生産額

(ア) 遠洋漁業

遠洋漁業の生産額は1,666億円で、遠洋まぐろはえ縄、遠洋いか釣が減少したこと等から前年に比べ146億円（8.1%）減少した。

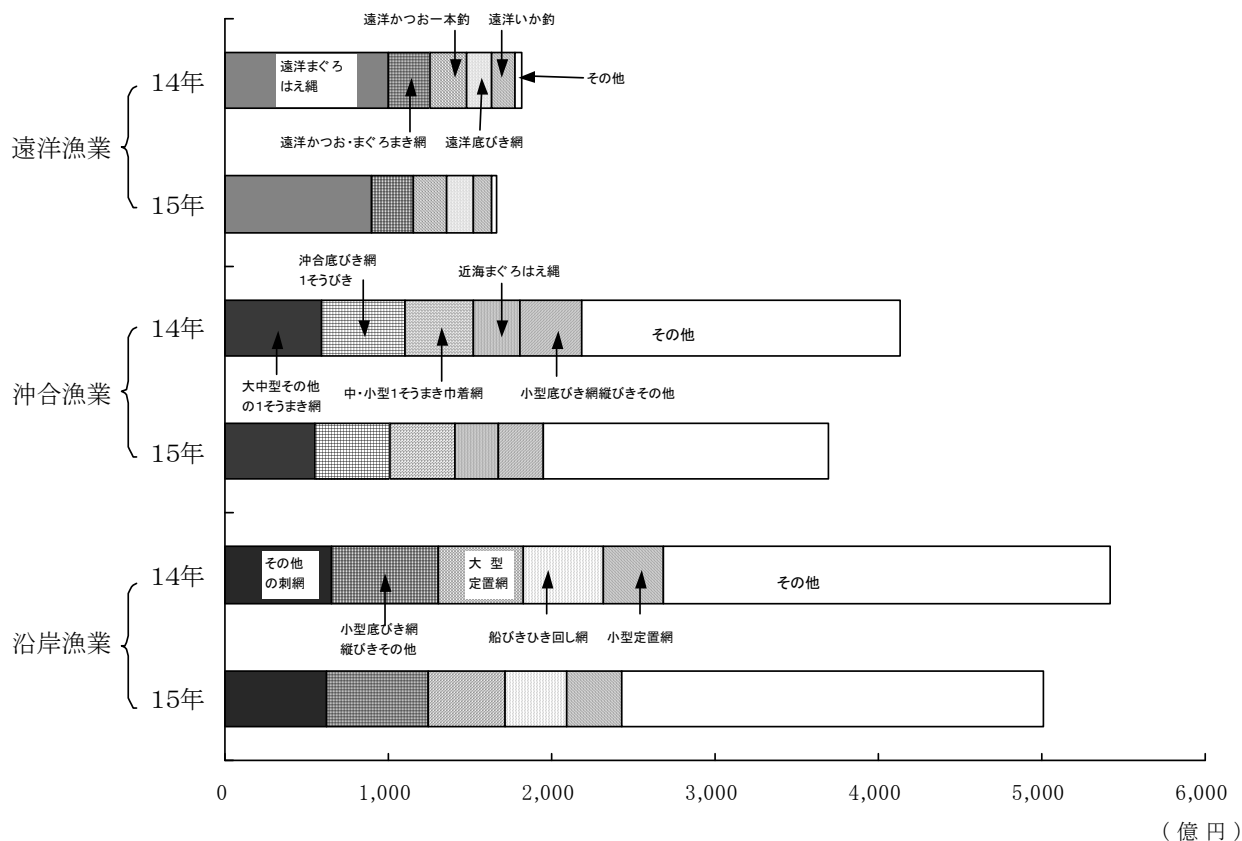
(イ) 沖合漁業

沖合漁業の生産額は3,692億円で、小型底びき網縦びきその他、さんま棒受網が減少したこと等から前年に比べ439億円（10.6%）減少した。

(ウ) 沿岸漁業

沿岸漁業の生産額は5,009億円で、船びきひき回し網、大型定置網、小型底びき網縦びきその他が減少したこと等から前年に比べ407億円（7.5%）減少した。

図17 海面漁業の部門別漁業種類別生産額



イ 魚種別生産額

(ア) 魚類の生産額は7,138億円で、前年に比べ835億円（10.5%）減少した。

a 生産額が増加した主な魚種

(a) きはだ

生産額は367億円で、漁獲量が増加したことに加え、価格が上昇したことから前年に比べ35億円（10.4%）増加した。

(b) いかなご

生産額は113億円で、価格が上昇したことから前年に比べ25億円（28.4%）増加した。

b 生産額が減少した主な魚種

(a) さんま

生産額は174億円で、価格が低下したことから前年に比べ132億円（43.2%）減少した。

(b) しらす

生産額は252億円で、価格が低下したことから前年に比べ126億円（33.4%）減少した。

(c) さけ類

生産額は478億円で、価格が低下したことから前年に比べ71億円（12.9%）減少した。

(d) かたくちいわし

生産額は223億円で、価格が低下したことから前年に比べ54億円（19.4%）減少した。

(イ) いか類の生産額は987億円で、前年に比べ40億円（3.9%）減少した。

このうち、するめいかの生産額は518億円で、漁獲量が減少したことから前年に比べ24億円（4.4%）減少した。

(ウ) 貝類の生産額は774億円で、前年に比べ117億円（13.1%）減少した。

このうち、ほたてがいの生産額は262億円で、価格が低下したことから前年に比べ114億円（30.2%）減少した。

(2) 海面養殖業

海面養殖業の生産額は4,476億円で、前年に比べ309億円（6.5%）減少した。

ア 魚類養殖の生産額は2,136億円で、前年に比べ2億円（0.1%）減少した。

生産額が多い魚種の動向は次のとおり。

(ア) ぶり類の生産額は1,225億円で、価格が上昇したことから前年に比べ89億円（7.9%）増加した。

(イ) まだいの生産額は516億円で、価格が低下したことから前年に比べ58億円（10.2%）減少した。

イ 海藻類養殖の生産額は1,122億円で、前年に比べ200億円（15.1%）減少した。

このうち、のり類の生産額は900億円で、収穫量が減少したことから前年に比べ228億円（20.2%）減少した。

ウ 貝類養殖の生産額は699億円で、前年に比べ52億円（6.9%）減少した。

生産額が多い貝類の動向は次のとおり。

(ア) かき類の生産額は378億円で、価格が低下したことから前年に比べ4億円（1.0%）減少した。

(イ) ほたてがいの生産額は299億円で、価格が低下したことに加え、収穫量も減少したことから前年に比べ44億円（12.9%）減少した。

(3) 内水面漁業

内水面漁業の生産額は564億円で、前年に比べ38億円（6.3%）減少した。

生産額が多い魚種の動向は次のとおり。

ア あゆ

生産額は259億円で、漁獲量が減少したことから前年に比べ44億円（14.4%）減少した。

イ しじみ

生産額は100億円で、価格が上昇したことから前年に比べ9億円（9.5%）増加した。

ウ さけ・ます類

生産額は57億円で、価格が低下したことから前年に比べ3億円（4.3%）減少した。

エ うなぎ

生産額は26億円で、漁獲量が増加したことに加え、価格も上昇したことから前年に比べ3億円（12.8%）増加した。

(4) 内水面養殖業

内水面養殖業の生産額は494億円で、前年に比べ17億円（3.5%）増加した。

生産額が多い魚種の動向は次のとおり。

ア うなぎ

生産額は218億円で、価格が上昇したことに加え、収獲量も増加したことから前年に比べ23億円（11.8%）増加した。

イ ます類

生産額は112億円で前年並みであった。

ウ あゆ

生産額は108億円で、収獲量が減少したことから前年に比べ1億円（1.1%）減少した。

エ こい

生産額は23億円で、収獲量が減少したことから前年に比べ3億円（12.3%）減少した。